「マーケットの浅読み・深読み」
発行・編集：FXニュースレター　　執筆担当：斎藤登美夫
▼▲▼
◇◆◇　No.0767　◇◆◇　　23/12/06

【　経験則からは小動き多い 12 月相場、ただ材料的には要注意　】

今年も残り 1 ヵ月を切った。油断は禁物ながら、ドル/円に関していえば今年 1 月の 127.22 円が年間最安値、昨 11 月に記録した 151.92 円がドルの年間最高値としてすでに確定している感も否めない。
そうした状況下、恒例となっている過去の経験則を参考にした月間見通しからすると、足もとの 12 月相場は果たしてどう動くのだろうか。過去のケースでは「小動きが多い」が果たして如何に!?

◎値動き的には「一方向」の動きに注意か、月末安の可能性も!?

まずは恒例となっている「過去の経験則」をもとにした、12 月相場の戦績を振り返ってみたい。1990 年以降昨年まで過去 33 年間の戦績はというと、勝率 18 勝 15 敗となっていた。
四半期末に当たるということで、いわゆるリパトリエーション、海外勢による本国への資金回避の動きなどを背景に巷間よく取り沙汰される「年末に向けてドル高有利」話ーーだが、前述したように結論からすると、正しいとは言いにくい。以前にも当レターで報じたように、ヘッジファンドの「45 日ルール」などを考えるとリパトリは前倒しで実施されることが多く、12 月相場に与える影響は軽微と言えそうだ。

一方、12 月相場について別に「特徴」がないか調べてみたところ、あと 2 つほど興味深い事象がわかった。順を追って説明すると、ひとつは「値動きそのものはさほど大きくない」ということ。年間を通してもあまり動かず値幅の乏しい月になることも多い。
とくに近年はその傾向が強く、たとえば 2019 年の月間変動は 1.30 円で年間変動幅 12 位、2020 年は同 1.87 円で同じく年間変動幅 12 位ーーと 2 年連続で年間最下位を記録していた。そして、こちらも以前にレポートしているが、昨年 3 月に始まった「大相場」、月間変動で平均 8 円を超える流れは今年 7 月に終わりを迎え、以降は 5.85 円、5.27 円、4.42 円と続き先の 11 月相場も 5.25 円の変動にとどまっているだけに、足もとの 12 月も基本的には月間変動が 4-5 円もしくはそれ以下となる可能性もありそうだ。

さらに、12 月相場のもうひとつの特徴としては、乏しい値動きなりに「一方向に偏った値動きを辿り易い」ということも意外に多く観測されている。これは経験則から見て若干有利なドル高ではなく、逆のドル安方向へと動いても、おおむねそうした傾向がうかがえていた。
たとえば、2020 年の 12 月は経験則的に有利なドル高とは逆方向であるドル安方向へと動いたのだが、その値動きは「月初高の月末安」。月間を通じて緩やかな右肩下がりをたどっている。また、経験則どおり月間を通し「ドル高・円安」方向に動いた 2021 年も形としては「月初安・月末高」の様相だった。月間高値の 115.20 円を月末 30 日と 31 日に示現し、そのまま高値圏をキープ。最終的に 115.12 円で取引を終え越年している。仮に、今年の 12 月相場が先月の流れを継ぐとすればドルは続落の流れか。月末に掛けて 145 円割れといった展開をたどることになるかもしれない。

最後に、過去のニュースを調べた場合、12 月は金融それも「為替」に直結して重要な事件が起こることが多いようだ。幾つか例を挙げると、「日本が金本位制を停止（1931 年）」「スミソニアン合意（1971 年）」「豪ドルが変動相場制へ移行（1983 年）」「日経平均株価が史上最高値 38915.87 円をつける（1989 年）」「韓国が完全変動相場制へ移行（1997 年）」ーーなどとなる。
また、一年の総決算にあたることもあってか「日債銀が経営破綻（1998 年）」のような大手企業の経営破綻や、「衆院が『黒い霧』解散（1966 年）」ーーなど政治的なイザコザも国内外で数多く起こっていた。もちろん、こうしたことは毎年必ず起こるというものではないものの、リスク要因として頭の片隅に置いていても損はない気がしている。

なお、前記したニュース的な「アニバーサリー」の話を最後にひとつ付け加えておくと、昨年の 12 月は「政治とカネ」をめぐる問題で、自民党の薗浦議員がまず辞職。そして秋葉復興相の事実上の更迭、水田政務官の交代ーーと自民党で連日のようなゴタゴタが発生し、岸田政権の屋台骨が大きく揺らぐ格好となった。振り返って今年 12 月はというと、始まって早々ご承知のように安倍派を中心とした「パーティー券収入

不記載疑惑」が発覚し、自民党に激震が走っている。
また、昨年 12 月は中国で新型コロナの感染対策緩和がなされたのだが、すると各地で感染が急拡大。再び世界を巻き込む社会問題となったことは記憶に新しいけれども、今年はというと同じ中国で「子どもに急増する謎の肺炎」騒動が大きく取り沙汰されていることは御承知のとおり。「歴史は繰り返す」ーーとは、ローマの歴史家ルーフスが言った言葉とされるが、まさにその通り。そして、「アニバーサリー」も侮れないと考えるのは、我田引水過ぎるだろうか。（了）

▼▲

当レターは、情報提供のみを目的としたものです。内容に関して正確であるよう注意を払っておりますが、その正確性を保証することはできません。投資や運用にあたっての最終的な判断は、あくまで読者自身の責任と判断によって、ご利用いただくようお願い申し上げます。また、本稿の無断転載・転送もご遠慮ください。
なお、本稿に関する問い合わせは『FXニュースレター』までお願い致します。

◆◇◆ Copyright (C) fx-newsletter limited company All Rights Reserved ◆◇◆

FX-newsletter